Vol. **71**

朝倉川通信

発行/特定非営利活動法人朝倉川育水フォーラム

〒440-8508 豊橋市花田町石塚 42-1 豊橋商工会議所内
Tel 080-6923-5257 URL http://www.asakuragawa.net
Fax 0532-53-7210 E-mail hotaru @asakuragawa.net





令和3年度朝倉川育水フォーラム

定時総会開催

令和3年6月5日(土)令和3年度の定時総会を開催。 令和2年度事業報告、決算報告、役員選任、令和3年度事業計 画予算案について討議可決されました。

コロナ禍という事もあり、委任状でのご出席を多くいただき ましたが、無事に予定していた議案の全てをご承認いただく事

が出来ました。

公募をする事は出来ませんでしたが、会員からの問い合わせが あった方を限定に、田植え事業も開催させていただきました。 本年度もイノシシとの仁義なき戦いのスタートです。

何とか秋の収穫祭まで稲を守り抜き、昨年のリベンジが出来たらと思っています。

本年度も、朝倉川育水フォーラムを宜しくお願い致します。

-2頁に関連記事掲載-

第 25 回 530 大会

コロナのため開催が危ぶまれま れましたが、無事終了しました。



実施日 4月17日(土)

参加者 1,500名

参加団体 41

学校1 行政6 自治会12 団体11 企業1 ごみの量 0、828トン

大きなごみ

自転車1、テレビ2、タイヤ2、バッテリー3、消 火器1、布団2、バンパー2、トタン板1、コンク リートブロック1、その他6

来年もたくさんの皆様のご参加お願いします。

2021.7 ◆ 朝倉川通信 1

令和 3 年度 定時総会報告

活動方針

令和3年度総会が開催されました。(一面に関連記事)今年度の活動内容の詳細です。 平成7年の創立以来26年目を迎え、河川を中心とした自然環境の保全に向けて活動 している私たちにとって、事業の継続性ということは大きなテーマとなってきます。

そのためにも、組織そのものの「持続可能性」にむけて、組織の増強や運営面の見直しなどを具体的 に行っていかなければならない時期に来ています。そのためにも、現在行っている事業の更なる進化

を支える人たちが多く集えるような様々な試みをしていきます。

【活動計画】

- ビオトープ事業や河川調査などを中心に、多くの子どもた。 ちが自然に触れ合う場面づくりの充実
- 井原第二公園のゲンジボタル再生のため、地域との協働し ていくための仕組みづくり





- ●法人会員を中心とした会員増強と会員サービスの強化
- 「朝倉川通信」、ホームページ(スマホ対応など)、SNS等 様々なツールを活用した、地域への活動に対する理解の促進
- 副理事長・委員長主導による事務局を含めた各種作業の効率化 にむけての見直し

QR コード決済を利用した会費徴収のしくみに向けての検討など 本年度も、数多くの事業を予定していますので官しくお願いします。

冒険遊び場ブレーパーク

プレーパーク代表 周布京子さん

朝倉川育水フォーラムさんの滝ノ谷池ビオトープの場所をお借り して、毎月第3土曜日に「とよはしプレーパーク」という名の冒険遊び場作りをして います。

「最近の子どもは遊ばない」言われます。時代が変わっても子ども達は変わりません。

変わってしまったのは、子どもを囲む環境で、子ども達から「仲間」「空間」「時間」の3間を奪ってき ました。子どもの心が豊かに育つためには、5感(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚)を通じた環境が欠かせま せん。そのための最重要な環境が自然です。穴を掘る、木を登る、道具を作る、虫をとる、土をこねる、川 に入る。自然はこうした子どもの世界を受容れ表情を変えてくれます。滝ノ谷池ビオトープという自然の中 で、子どもは自分で遊びを発見し、自分で遊びを創り出します。そこでは、「あぶない!」「きたない!」 「うるさい!」から「やめなさい」と大人の一方的な価値観で叱られず子どもが自分で選択し、自由に遊ぶ 事で自分が責任を負うことで、「生きている」喜びに触れられ「生きる力」を育んでいるのです。



子ども達が生き生きと目を輝かして夢中で遊ぶ姿を是非見て下さい。

- 毎月第3 土曜日 9:30-15:00
- 自由参加自由解散 参加費は不要です
- 対象年齢は O-120 歳
- 催しはありません。「自分の責任で自由に遊ぶ」 「ケガとお弁当は自分持ち」がモットーです。



朝倉川へのメッセージ

昨年は新型コロナウィルスの感染防止のため朝倉川へのメッセージの

募集が秋になりました。今年は例年のように 530 大会の併催イベントとして実施することができました。 コロナのため今年度は 530 大会参加を見合わせた学校さんもあり、応募総数は 502 点の作品が寄せられま した(昨年 555 点)

その中から最優秀賞4点、優秀賞5点、入選11点、佳作12点が選ばれました。

最 優 秀 賞





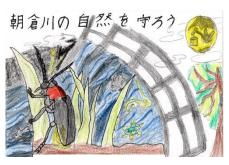


<柿野みちる>



優秀賞





<浦野倫生>

<岡田遥汰>



入







<岩田くるみ>

<須加崎結衣>

<兔澤希美>



選





←<石田悠真> ↑<呉屋柱杏愛理>

<サントスムリロ>

3

入 選









<鈴木結佳>

<奥村芽依>

<坂本柚花>

<杉本音緒>







<鈴木綾乃>

<平松詩希>

<村田樹莉亜>

佳 作







<赤松舞海>



<今泉晴悠>



<渥美諒祐>



<伊藤瑚心妃>



<菰田優菜>



<篠田浬那>

皆さんは、イボガエルとはどのようなカエルかご存じでしょうか?実は、イボっぽい雰囲気のあるカエルの総称であって、イボガエルという名前のカエルは存在していません。 一般的にはヌマガエルやツチガエルの事を言います。



このイボガエル、古来の日本と現代においての日本では主たる種の認識は全く違っています。「古池や 蛙 (かわず) 跳びこむ 水の音」と、江戸時代に松尾芭蕉によって詠まれましたが、この「蛙」はツチガエルを指していると言われています。従来、このように何気なく詠まれるほど日本中に広く生息域を持ち、人間の暮らしにとって身近なカエルと言えばツチガエルでしたが、現代における一番身近なイボカエルはヌマガエル

になっています。我々にとって、カエルの主な生息地といえば田んぼです。古来より続く稲 作文化とカエルは切っても切れない関係にあり、その生息環境の変化がこのイボガエルの認 識を大きく変えた事に繋がっています。

現代と古来の田んぼの一番の大きな違いは、その稲の生育過程で乾田を行うか行わないかに

あります。乾田を行う理由としては、稲の生産性の向上や地球温暖化の影響による自然災害からのリスクを下げる為、一定期間田んぼの水を抜き、土中にしっかりと根張りをさせる経済的側面によるところが大きいです。この事が、短期間でカエルに成長するヌマガエルには有利にはたらき、オタマジャクシの状態で越冬する幼生期間の長いツチガエルには不利で持続不可能な生息環境となってしまいました。そして、ツチガエルは河川環境ではなく、止水域や緩やかな流れのある浅い水深でなければ繁殖をする事が出来ません。この繁殖形態によ

り、乾田化や行き過ぎた治水が現代において減少のスパイラルを引き起こしています。 人間の都合による利便性の追求は、ツチガエルにとって持続不可能な環境に繋がりますが、 だからと言って経済的側面を無視して生きる事も困難な事も事実です。今後も持続可能で 豊かな自然と都市との共生を考え、行動していかなければならないと強く思います。

この豊橋市においても、平野部の田園地帯でツチガエルを見つける事は非常に困難になってしまいましたが、井原第二公園(まちなかビオトープ)では僅かながら一年を通じて観察をすることができる貴重な場となっています。ゲンジボタルを増やす取り組みの中での副産物であり、貴重な生息地でもありますから、今後も整備作業をはじめとする様々な事業を継続して次世代に渡していきたいと思っています。

佳 作













〈南ロルカス〉

5

2021.7 ◆ 朝倉川通信

ビオトープ便り・春夏

ビオトープの春から夏は草との闘い。近年はイノシシとも。 たくさんの子どもたちも作業に加わって、いつの間にか生き物観察 会になったり、おやつ作りになったりと楽しい時を過ごしています







<素敵に完成>

<崩れた最上流部保全作業>

<田植えも慣れました>







作業の合間の 子どもたち

<雨天決行>

く桜中草木染>

<ブランコは人気者>







<いつも子どもたちに大人気の木>

<日本ミツバチも仲間入り>

<中央高校の生徒さんもビオトープ初体験> <作業中>









会費納入のお願い

会費のお振込みがまだの方、ご入金を お願い致します。お近くの理事にお渡し頂くか 直接事務局までお届けください。

全てのお申込み・お問い合わせは

特定非営利活動法人朝倉川育水フォーラム

〒440-8508 豊橋市花田町石塚 42-1

TEL 080-6923-5257

FAX 0532-53-7210

URL http://www.asakuragawa.net

E-mail hotaru@asakuragawa.net